

愛齒技工専門学校
自己点検及び自己評価報告書
(平成 27 年度)

公益財団法人 愛世会
愛齒技工専門学校

・自己点検及び自己評価実施期間（本書作成日）

平成 28 年 3 月 31 日（木）

・点検・評価対象（期間）

平成 27 年度内を対象とする。

[平成 27 年 4 月 1 日（水）～平成 28 年 3 月 31 日（木）]

・点検・評価項目

下記のとおりとする。

1. 教育理念・目的・育成人材像

1-1 教育理念・目的・育成人材像が定められているか

1-2 学校の特色は何か

1-3 学校の将来構想を抱いているか

2. 学校運営

2-4 運営方針は定められているか

2-5 事業計画は定められているか

2-6 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

2-8 意思決定システムは整備されているか

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

3-10 学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

3-18 資格取得の指導体制はあるか

4. 教育成果

4-19 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか

4-20 資格取得率の向上が図られているか

4-21 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか、又退学率の低減が図られているか

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

5. 学生支援
 - 5-23 就職に関する体制は整備されているか
 - 5-24 学生相談に関する体制は整備されているか
 - 5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
 - 5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
 - 5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか
 - 5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
 - 5-29 保護者と適切に連携しているか
 - 5-30 卒業生への支援体制はあるか
6. 教育環境
 - 6-31 設備・施設は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
 - 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
 - 6-33 防災に対する体制は整備されているか
7. 学生の募集と受け入れ
 - 7-34 学生募集活動は適切に行われているか
 - 7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
 - 7-36 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか
 - 7-37 学納金は妥当なものとなっているか
8. 財務
 - 8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか
 - 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
 - 8-40 財務について会計監査が適性に行われているか
 - 8-41 財務情報公開の体制準備はできているか
9. 法令等の遵守
 - 9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
 - 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
 - 9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
 - 9-45 自己点検・自己評価の結果を公開しているか
10. 社会貢献
 - 10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
 - 10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
11. 国際交流
 - 11-48 グローバル人材の育成にむけた国際交流などの取り組みを行っているか

1, 教育理念・目的・育成人材像

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目		点検の進み具合 (評価値)
1-1	教育理念・目的・育成人材像が定められているか	4
1-2	学校の特色は何か	4
1-3	学校の将来構想を抱いているか	4

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

1-1 教育理念・目的・育成人材像が定められているか

創立者鹿毛の“「誠」と「誠」のふれあうところに「お互いに良く」がある”の考えから、「誠」を建学の精神・教育理念としている。歯科技工士養成校として、「歯を愛し医の心を大切に歯科医療に貢献する」「人間美を創造する」歯科技工士の育成をめざしている。

1-2 学校の特色は何か

少人数クラスで実践的な教育機会を設け、業界で求められる歯科技工士の育成を目指している。一年次には株式会社モリタ等の歯科関連企業を数社見学し、二年次には本校附属の「愛歯技工研究所」で歯科技工の現場に触れる機会を設けている。業界人から学ぶ機会を設け、専門性の高い人材育成に力を入れている。

1-3 学校の将来構想を抱いているか

近年の学生募集状況から、「歯科技工士」の職業を“知らない”者へ、業界企業と連携した広報事業・適切な情報提供や高等学校への出張授業を通して、より多くの歯科技工士の育成が急務であると考えている。また、CAD/CAM等の新たな技術・機器が日々導入されている歯科業界の状況をふまえ、現在も行っているが、時勢に合わせた教育課程の検討・再編成が今後も必要であるとする。

2, 学校運営

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
2-4 運営方針は定められているか	4
2-5 事業計画は定められているか	4
2-6 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	3
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	4
2-8 意思決定システムは整備されているか	4
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

2-4 運営方針は定められているか

部・科単位で会合し、本部（公益財団法人愛世会）で審議している。毎月の経営審議会等で、運営状況の確認及び指針の策定・改善策を審議している。なお、愛世会ホームページで運営（経営）状況及び事業計画に関する情報を公開している。

2-5 事業計画は定められているか

事業等の実施及び予算案については本校の部会等で協議し、前年度3月の稟議で決定している。計画は、毎年公益財団法人愛世会に提出され、ホームページで公開している。また、学校関係者評価委員会で保護者等学校関係者の意見を取り入れている。

2-6 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか

必要に応じて所属部署または業務担当同士で会合を計画・実施し、本部で意思決定している。個々の意見や運営上の問題点をもとに科や部単位で会合を持ち、より良い学校運営に役立っている。意思の決定方法については会議により異なるが、決定が困難な場合は複数回会合の場を設けている。

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

教職員及び従業員の雇用・処遇情報は人事担当が管理し、環境整備に努めている。公益財団法人愛世会の一機関として、法令に基づき公益財団法人愛世会で人事・給与等の処遇基準を定めている。

2-8 意思決定システムは整備されているか

本校幹部会議(部科長会(月一回))等での意思決定の場に加え、所属部署(教育部会(必要に応じ))または業務担当同士で(毎朝一回)必要に応じて会合を計画・実施している。

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

求人票のデータ管理、学籍情報・学生証データのやり取り等、必要に応じ適宜データベース化し、効率化に役立っている。

3, 教育活動

評価値: 「5」完璧 / 「4」かなり進んでいる / 「3」普通、まずまず / 「2」やや足りない / 「1」ほとんど進んでいない / 「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
3-10 学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか	4
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	4
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	4
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
3-18 資格取得の指導体制はあるか	4

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

3-10 学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか

「教育課程編成委員会」を年二回開催し、業界のニーズ・意見を教育課程の編成に取り入れている。平成27年度に引き続き、平成28年度もCAD/CAM教育の充実のため、授業プランの見直しに努めた。

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

本校は修業年限二年の専修学校（医療専門課程）で、二年次での歯科技工士国家資格の取得及び進路決定を目標としている。歯科技工士養成機関に求められるガイドラインや校則に基づき各講義・実習を行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

年度ごとにカリキュラム（教育内容を学習段階に応じて配列したもの）を編成し、担当教員が科目ごとにシラバス（授業の計画書）を作成している。これを基本に授業を実践している。毎年、学生の技術、学習レベルに合わせて各課題の入れ替えや時間割を組み替えるなどを実施している。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

「歯科技工士養成所指導ガイドライン」に基づき、各科目を指導している。学科目の教本（全国歯科技工士教育協議会編集）の内容は、専門用語が多く、入学して間もない学生には一般的に難易度の高いものと考えられる。そこで、教本の内容を踏まえ、基礎の実習（材料の性質、歯の観察）などを先行してスタートさせ、学科目の理解度を高めるなど、教本と実習がリンクするよう配慮している。

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

平成27年度から歯科技工士国家試験が全国統一化され、実技試験内容等一部変更が生じた。本校では、学生の一定の技術レベルの保持のため、国家試験に加え全技協の実技評価試験の受験をカリキュラム内に取り入れた。業界が新卒歯科技工士に求める技術レベルを見据えた上で、各学生の実力を見極め、学校として指導できる限りを尽くしている。

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

「学校関係者評価委員会」等、外部の学校関係者からの客観的な意見・評価を取り入れている。また、クラス担任との個人面談時に各教科の難易度、つまづき、について聞き取り、授業担当者と連携しながら、各授業の評価を専任教員（科単位）で実施している。

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

各分野知識ある専門教員が授業を担当している。専任教員は積極的に学会・講演会、研修等に参加している。（専任教員の活躍については本校ホームページ等でも公開している。）教育者として、指導力向上のための研修、ならびに専攻分野・実務に関する研修を受講し、指導力向上に努めている。また、研究成果を論文で発表し、明文化・書籍化するなど学術的な取り組みにも力を入れている。

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

シラバスで明記しているとおおり、テストの成績で評価したり、テストとレポートで評価を行うなど、各科目で評価方法は異なるが、学則に定めるとおり100点法、合否基準(60点以上を合格、進級・卒業要件とする。)で評価している。また、授業時には一人ひとりのレベルにあわせた指導対応を心がけているが、試験時には公正な基準で採点している。(本校は今後単位制導入に伴いカリキュラムが再編される予定だが、単位制移行後も学則等で基準を明確化し、適正な評価を行う。)

3-18 資格取得の指導体制はあるか

学科目の国家試験実技対策としてマークシート方式の模擬試験を10回、必要に応じ試験後成績不良者には面談(学力分析と原因究明、今後の対策のため)をしている。実技科目は、20~30回の本番を模した実習を行い、その都度評価表に作品の評価と今後の修正点を明示して作品返却を行っている。昨年に引き続きほん学科目を苦手とする学生の対策として、国家試験本番を想定した医歯薬出版株式会社の模擬試験を新たに(授業内で)実施するなどした。

4, 教育成果

評価値:「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4
4-20 資格取得率の向上が図られているか	4
4-21 退学率の低減が図られているか	3
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

平成27年3月度卒業者の正規雇用就職決定率は100%であった(平成28年3月末日時点)

毎年、専任教員が就職担当として学生の就職活動を支援している。担当教員は早期に「個人面談」を実施し、就職に関わる意識を向上させ、就職希望分野を明確にすることで就職活動をスムーズにし、就職率の向上に貢献できている。

4-20 資格取得率の向上が図られているか

資格取得に関しては、100%取得（全員合格）をめざし指導しており、毎年全員合格または全員に近い合格実績を誇っている。（平成27年度受験者13名中13名合格）具体的には、成績不良者への補習や再試験等を適宜実施している。また、必要に応じ、保護者等と連携し、激励や学習態度等生活の指導を行っている。

4-21 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか、又退学率の低減が図られているか

入退学者数・学生の状況に関しては教職員間で都度情報共有を図っている。本校の主な退学理由としては「1,学則違反・病気疾患、家庭の事情等、個人のやむをえない事由による退学」「2,進路検討時とのギャップなどによる退学」「3,成績不良による退学」の大きく三つが挙げられるが、2と3については低減可能と考えている。理由2の退学率低減のためには、学生が明確な目的意識・意志をもって入学し、学習に励むことが重要であると考えられる。本校では具体的に進路検討者へのホームページ・資料等での情報公開や、（愛歯技工研究所等）事業所見学で職場環境の様子説明等の機会を設け、業界についてよく理解した上で受験を判断していただいている。3についてはクラス担任・副担任が各学期末を中心に適宜個別面談で躓きに対する具体的な指導をおこない、補習するなどしている。

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

少人数制教育により在學生・同窓生（卒業生）との結びつきは深いと自負している。卒業生との情報交換会（年一回、7月）・同窓会（年一回、1月）が教職員参加で行われ、社会的な活躍・評価の把握に活用している。また、外国等遠方に在住している卒業生・在學生の活躍の紹介を同窓会報や広報誌等で積極的に紹介している。

5, 学生支援

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
5-23 就職に関する体制は整備されているか	4
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-29 保護者と適切に連携しているか	3
5-30 卒業生への支援体制はあるか	4

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

5-23 就職に関する体制は整備されているか

毎年6月下旬に校内で合同企業説明会を実施し業界内の中～大規模企業について理解を深めた後、個人面談で、個々の就職希望・意志についての明確化を促している。また企業からの「求人票」を公開し、学生の希望に応じて就職担当が企業と連絡を取り、就職活動を支援している。個人の状況に応じて就職担当が活動支援している。卒業生については適宜個別相談を実施している。再就職を希望する者に求人を紹介している。

5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

前頁の通り担任制を採用し主にクラス担任が学生相談の窓口になっている。相談内容によっては他教員や事務職員の適任者が対応している。また、愛誠病院内の精神科では心理状態の把握、専門医師による医学的な対応をすることが可能である。

5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

在学中に使用する材料費等、学生の負担低減が検討できるものに関しては、毎年、購入検討、業者・品番の再選定などによる価格を見直している。学費納入支援制度として本校独自に分期納入制度を設けている。また、奨学金制度の紹介等、個々のおかれている状況や家庭の事由をふまえた上で、都度個別に対応している。

5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

毎年5月上旬、全学生を対象に健康診断を実施している。また、怪我等の処置・体調不良者については学内の保健室と徒歩7～8分程でアクセス可能な公益財団法人愛世会グループの「愛誠病院」（救急対応可能）で対応している。なお、授業担当者をはじめ、担任・副担任が学生の体調変化に気を配っている。

5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか

学内外の講演会等の参加を積極的に勧めている。（ポスターの掲示・口頭での紹介等による。）また、学生の自主性を尊重し、学業及び学生生活に支障がない範囲であれば専攻分野（歯科技工）以外での課外活動も勧めている。

5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

利用費が安価な学生寮を設けており、遠方からの通学が困難な学生が利用している。また、食堂の利用が可能である。

5-29 保護者と適切に連携しているか

学修において保護者の存在は重要である。具体的には、年間行事予定等情報の公開・共有や、成績不良者への激励・素行不良者への生活指導等の個別指導で連携している。

5-30 卒業生への支援体制はあるか

希望者対象に個別相談や再就職支援を適宜行っている。また、在学時より少人数制で一人ひとりに寄り添った指導により、「何かあったら相談できる」環境づくりに努めている。同窓会報等での活躍紹介や、事業等の広報を可能にしている。

6, 教育環境

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目		点検の進み具合 (評価値)
6-31	設備・施設は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
6-32	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-33	防災に対する体制は整備されているか。	4

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

6-31 設備・施設は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
設備・施設についてはその都度点検・修理し、必要に応じて年度予算の範囲で購入している。平成27年度から国家試験が全国統一化されたこともあり、実技試験対策などで必要な材料や器具が（前年度までとは）異なったため、（試験に合わせて）新たに購入した。

6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
例年3月に実施する献体解剖見学等、実践的な知識・技術の習得のための機会を積極的に設けている。また学校行事「研修旅行」で国内外の学会に積極的に参加している。平成27年度は福岡で行われた学術大会に参加した。

インターンシップに関しては学業に支障が生じない範囲で学生の判断で参加させている。平成27年度は、附属の「愛歯技工研究所」で東京都立足立西高等学校から5名、東京都立杉並工業高等学校から1名の計6名の生徒のインターンシップ希望者を受け入れた。

6-33 防災に対する体制は整備されているか。

毎年、全学生・全教職員対象に防災訓練を実施している。訓練時に、板橋区の消防署職員に訓練の様子をご覧いただき、改善点等アドバイスを受けている。消防署職員の御好意により実現している、防災に対する貴重な意見をいただける場であり、今後もこの機会を可能な限り活用していきたい。また、例年2～3名（研究所職員含む）が板橋区消防署主催の消防大会に参加しており、防災意識・技術の向上に努めている。平成27年度板橋区消防署主催の自衛消防大会では準優勝であった。

7, 学生の募集と受け入れ

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
7-34 学生募集活動は適切に行われているか	3
7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
7-36 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3
7-37 学納金は妥当なものとなっているか	4

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

7-34 学生募集活動は適切に行われているか

毎年法令・規定にそって受験資格・募集要項を定め、本校の求める学生像に基づき募集活動している。適性や人物性、目的意識・学習意欲を重視し選考している。

7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

平成27年度に学校のホームページをリニューアルしトップページの「お知らせ」や「ブログ」等でこれまでホームページ上では発信できていなかった学術的な取り組みや教育成果についても適宜公開できるようになった。しかしながら歯科技工士の周知や学校の広報活動としては十分とは言えず、今後も積極的に情報を提供していく所存である。

7-36 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか

試験では本校の求める学生像、募集要項に記載した情報に基づき判断している。また、歯科技工士は技術職であり、技術面での適性等が重要な判断基準となる。そのため、面接試験等選考時にはイベント「体験入学」参加時の作業の様子や一般入試「適性（彫刻）試験」受験時の様子（手先の動かし方、器具の使い方等）も参考にしており、その旨を事前にイベント情報公開資料等で告知している。

なお、適正かつ公正な判断のため、面接試験時に試験監督を二名の教員が担い、多様な視点から選考している。また、可能な限り年度内で同一教員が監督官となることで、同一基準による入学者選考を実現している。

7-37 学納金は妥当なものとなっているか

学生負担低減のため材料費等の適宜見直し・改善に取り組んでいる。本学の学生定員充足率や経営状況をふまえると学納金の増収が望ましいが、学生や家庭の負担を考え、次年度も値上げは行わない方向で検討している。

8, 財務

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	2
8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
8-40 財務について会計監査が適性に行われているか	3
8-41 財務情報公開の体制準備はできているか	4

・点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等（次頁記載）

8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか
幸いにも本校は附属研究所を併設しており、経営を一体化していることが強みとなっているが、ここ数年、学生募集等学校の収入の面で安定しているとはいえない。入学者数が定員になるような募集活動は急務である。

8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
平成28年度予算については経営状況等をふまえ、予算縮小を決定した。しかしながら、学生使用教室等の設備保守代は必要であるため確保するなど、予算の中でも、必要経費と優先順位をふまえた経費の支出計画が重要である。また、学生募集活動の改善のための広報事業の予算を確保している。

8-40 財務について会計監査が適性に行われているか
毎年本部である公益財団法人愛世会の監査員が会計監査を実施している。

8-41 財務情報公開の体制準備はできているか
ホームページにて公開している。

9, 法令等の遵守

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項 目		点検の進み具合 (評価値)
9-42	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
9-43	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
9-44	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
9-45	自己点検・自己評価の結果を公開しているか	3

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

本学は東京都認可の専門学校であり、基準に基づき設置・運営している。また、適切な運営のため学則内でルールを設け、入学前や入学時の保護者会等の機会に学生ならびに保護者への周知に努めている。

9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

状況に応じて、個人情報の取り扱い・保護及び公開の対策を講じている。例えば、学籍原本は鍵で施錠し、限られた者しか保管場所を知ることのないよう努め、必要な時に持ち出し・管理をしている。データ等はパスワードを設定し管理している。また、事務室内を対象とした個人情報保護に関する外部企業の監査が毎年一回実施されている。

9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

毎年自己点検・自己評価を実施しており、評価時の評価項目並びに評価後の改善策考案について、部会等で審議している。

9-45 自己点検・自己評価の結果を公開しているか

本書（平成27年度自己点検・評価報告書）は、ホームページ等での公開を予定している。

10, 社会貢献

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3
10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3

・上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
施設活用として近隣の施設への駐車スペースの貸し出しや、高等学校等生徒のインターンシップの受け入れ（愛歯技工研究所）、小中学生の見学受け入れ等を実施している。学生生活に支障がない範囲で撮影機関・団体への校舎外観使用を許可している。また、本校附属の「愛歯技工研究所（歯科技工所）」・「愛歯技工専門学校附属歯科診療所（歯科診療医院）」や本校の運営母体である公益財団法人愛世会グループ経営の「愛誠病院」「シルバーピア加賀（福祉施設）」「上野クリニック（人間ドック等健康診断実施機関）」によって、主に医療福祉面での社会貢献に力を入れている。

10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
二年間という限られた学習期間の中、学業に支障をきたすことなく、全学生一丸となって活動する機会を設けるのは現状困難であるといえる。しかし、学業に支障のない範囲であれば学生の自主性を尊重し、各自の判断による参加等を勧めている。近隣の大学病院等の学生ボランティア募集広告を学生向けに広報するなどしている。

11, 国際交流

評価値：「5」完璧／「4」かなり進んでいる／「3」普通、まずまず／「2」やや足りない／「1」ほとんど進んでいない／「NA」当てはまらない

項目	点検の進み具合 (評価値)
11-48 グローバル人材の育成にむけた国際交流などの取り組みを行っているか	4

・ 上記点検項目に対する現状認識・評価等およびその根拠、課題とその解決方法等

11-48 グローバル人材の育成にむけた国際交流などの取り組みを行っているか

本校では、国内外問わず地球規模、多様な視点から物事を捉えることができ、一医療人ならびに一歯科技工士として、知識や技術を積極的に周囲から学び、医療福祉分野・社会に惜しみなく活かし貢献できる人材を「グローバルな人材」と捉え、このような人材の育成を目標としている。人材育成のためには在学時より多様な視点をもった医療人との交流が望ましいと考え、校内外の学術大会への参加や、「クワタカレッジ」受講生を中心とする歯科技工士・歯科医師等業界関係の医療職業人と学生が積極的に交流する機会を設けている。今後も渡航費等なるべく学生に負担をかけず、国内外の歯科技工士を中心とする専門家ならびに歯科医療従事者との交流機会等、業界関係者の声に触れられる学びや気づきの機会を積極的に取り入れていきたい。